

世界のおくりもの こどもとおとなをつなぐもの

会期：2006年10月12日(木)～
2007年3月21日(水・祝)

場所：常設展示場内

みんぱくには、日本や世界のさまざまな地域における子どもと大人とのつながりを感じさせてくれる資料がたくさんあります。今回の企画展では、「こどもを護る」、「子どもの成長を願う日本人の想い」、「信仰・祈り」、「装い」、「学びと遊び」、「思いを託す」といったテーマにあわせたエピソードとともにそれらの資料のいくつかをご紹介します。また、今年の3～5月に開催された特別展「みんぱくキッズワールド」に訪れた子どもたちのいきいきとした様子を併設の写真展でご紹介します。

ウルナイフ・カナダ



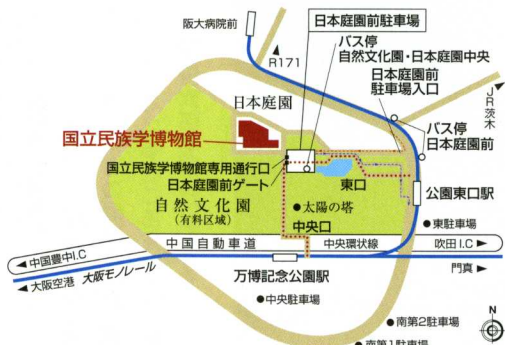
虎頭鞋(ホウトウシエ)・中国



編集後記

「産む」特集(2月号)の構想を考え始めたころ、動物園のオランウータンの「夫婦の営み」について新聞で読んだ。人間に育てられ、自分を人間だと思っている雌が雄をいやがり、つれあいの雄も、そんな雌を恐れて交尾したがりないらしい。雄に自信をもたせるために飼育係が雌をとときしかりつけてみせると書かれていたが、その行為が果たして…猿人道的に適切なのかと疑問をもった。檻のなかのセックスレスな夫婦生活か。「産む」ためには「まぐわう」必要があるのだが、人間界においてもそれは一筋縄にはいかない場合が多い。

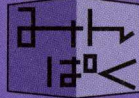
その後「育てる」(5月号)も監修したが、やはり「まぐわう」が気になる。しかし、どうまとめたものか…。と悩んでいるときに、たまたま別コーナーに近藤氏から届いたのが前掲の原稿。「これはイケル」と、早速口説きにかかり、構想を練るところから、執筆者、写真探しまで協力していただいた。この順序こそ前後したが、産む・育てる・まぐわう、これで少子化の時代を考える「生の三部作」の完結である。このきわどい企てに、まんまとはまってくれた近藤氏に感謝する。
(山中由里子)



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内 ●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。 ●阪急茨木駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。 ●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。 ●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

月刊



次号予告/12月号特集
30巻記念

2006年11月号 第30巻第11号通巻第350号
2006年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

編集委員 池谷和信(編集長) 榎永真佐夫
川口幸也 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます